

## 宮崎県教員育成協議会 議事録概要

### 1 日時

令和7年1月31日（金） 午後2時30分から午後4時30分まで

### 2 会場

県庁防災庁舎52号館

### 3 出席者

宮崎県教員育成協議会委員14名

### 4 内容

#### (1) あいさつ（副教育長）

#### (2) 説明

- 去年の協議内容と改善点（教職員課）
- 次年度の教員研修について（研修センター）
- 令和7年度教員採用選考試験の実施について（教職員課）
- 教員養成に係る大学生の調査(アンケート)報告（教職員課）
- 「条件付採用」教諭についての現状について（教職員課）

#### (3) 協議（分科会）

協議題「宮崎県教員育成指標を踏まえた養成・採用・研修における大学と教育委員会との連携について」

- ・大学との連携推進
- ・採用選考等の工夫・改善

#### （分科会A）

#### <大学との連携推進>

委員：正式採用にならなかった校種にはどのような特徴があるのか。

事務局：小学校が多い。

委員：倍率が下がっているのも大きな要因になっていると思う。

委員：小学校はすぐに担任をするというのも影響しているのではないか。

委員：講師経験もなく、急に授業参観、保護者対応をするのは大変と思う。現場ではどのように感じるか？

委員：講師経験がある人たちは強く、なにも言わなくても動ける。一方、大卒ストレートは一緒に面談に入ったり、参観日の前は準備したりしている。

委員：例えば、新採に担任をもたせないなどするという話にはなっていないのか。

事務局：検討するよう指示をもらっている。現状は県立高校で担任を持たせていない。

委員：高校は集まる生徒層が固まっているのでやりやすく、また新採は担任につかせていない。小学校・中学校も同じように1年目は担任につかないようにするといいいのでは。高校は担任を持たせないことで、学ぶ場があり、部活動を持たせて馴染んでもらうことで1年間猶予期間が持てるためストレスを感じにく

いのではないかと考える。

委員：小学校は実際に担任を持たせないと学校がまわらないからではないか。そうになると新採をどのようにサポートするのか。指導者によって対応方法がバラバラではないか。指導者の共通理解が大事である。単に担任を外すだけでなく、指導体制の充実が必要と感じる。

委員：条件採用期間中にやめていく先生が増えている中で、校長は体制を整備している。一番の問題は、依願退職等の方は精神疾患でやめていく人がほとんどであり、それはほぼ5月に発症している。その背景を確認するとコミュニケーション能力が足りていない。人と関わる力に耐性がない。そこをどのように育てていくかが大事。

委員：現在は失敗経験がないので小さなことで落ち込んでしまう。今の大学生は自分で考えるのではなく指示待ちが多い。

事務局：働き始めたら失敗の繰り返しだと思う。そういうときにコミュニケーション能力が大事と思う。

委員：初任地の配置はどうなっているのか。

委員：基本地元に近いと思う。

委員：現状、地元に近いかどうかはあんまり関係がない。大学では職場体験講座みたいなのはあるのか。1週間でも良いから、外の社会に触れるプログラムを作って、いろんな人と関わる場を作ってほしい。大学3年生チャレンジ受験に合格したら、社会体験研修を組んだり、1ヶ月間学校に派遣して現場をじっくりみてもらったりする場を大学と県で協力して作ってほしい。

委員：うちの大学ではボランティアで学校の行事の手伝い等を単位として認めており、そういう経験が子供たちと接する時に活かされている。

委員：近くの学校にいき、ボランティアをするプログラムを組んでいる。そういった機会に学校の現場を見られる環境を作っている。

委員：学校現場の中だけで完結すると難しい。学校の先生は、ずっと学校にしか関わっていないため外の世界をみる経験が大事である。

委員：新採後も大学とできる範囲で連携してほしい。本大学では気になる子がいたら学校を訪問し、相談に乗っている。大学になら本音を出してくれるため、相談にのることで表情が変わった経験がある。

委員：新採に担任を持たせないのがいいと思うのは昔と違ってフォローがしにくくなっていると思う。指導する教員も自分のことで精一杯なため、相談しようにも相談ができずにいるのではないか。

委員：初任者研修が終わると清々しく帰ってくる。初任者同士で悩みを言い合うのが大事と思う。研修が少なくなるのは分かるが大事と考える。

委員：コロナにより研修がオンラインになり、だれとも繋がれずダウン寸前になっていた先生がいるため、集まって研修することが大事なのは分かる。そのため何回も集めると学校等の負担となるが、できるかぎり対面でやり、対話の時間を作っている。また、メンター制を初めて7、8年経つが成果をみていくべきではないかと考える。条件付不採用の割合は少ないので、制度が機能している

と考える。先々を考えたとき、違う道を示すのがこの制度の目的だと思う。採用になった人でも難しい人のために副担任制はあっても良いと考える。

#### 〈採用選考等の工夫・改善〉

委員：ネットのニュースで早期化は意味がなかったと県の意見が記載されていたが、宮崎県としてどうなのか。また、昨年度の意見としてあった鹿児島県が始めた大学3年生チャレンジ受験により人が流れるとあったが結果どういう状況だったか。

事務局：早期化の最初の目的は企業との競合のためであったが、そのことについて都市部と比べて企業が行くための辞退が多くないという話である。また、鹿児島県に流れたかどうかについての確認は難しい。

委員：他県の大学に行っている学生が宮崎に戻ってもらうためには、大学3年生チャレンジ受験はいいことかなと思う。

委員：大学3年生チャレンジ受験について学校サイドからはどうか。

委員：3年生で受かった人がコミュニケーションのためのカリキュラム等や現場を見に来る環境ができると3年生受験の効果があると思う。

委員：中学校・高等学校の教育学部ではない人を確保する上では、大事ではないか。そういう学生は教育実習に2週間程度しかいない。工学部で卒業後、教育の大学院にくる人がいる。

委員：そういう学生は志が高い。県外出身者で教員志望の子たちを学校で受入るのを進めている。その学生に宮崎県の教育の良さを知ってもらいこちら側に引き込んでいくことが重要と考える。

#### （分科会B）

#### 〈大学との連携推進について〉

委員：精神疾患、依願退職が令和5年度増えているような気がする。学校が小規模化している中で、先生方のコミュニケーション、育成をするために、ミドルリーダー的な存在が必要ではないか。

委員：アンケートをみると児童生徒、保護者との関わりが学生の中で気になっている割合が高い。大学で知識、教科指導に関する部分はしっかり学習している。一方、子供、同僚、保護者とのコミュニケーションがしっかりとれていればそこまで大きなトラブルにならなかったのではないかという事案もある。

その部分を補う講座などがあると良い。同僚、上司に相談しても良い、失敗をしても良いんだという意識をもってほしい。先生たちが忙しそうにしていて相談できないという声もある。

委員：本校で大学との連携で素晴らしいと思うのが、サポート依頼をする連携をしている。校外学習や遠足など人手が必要な行事などでサポート部隊を依頼している。ボランティアでずっと続けていただいている。実習期間のような形のあるところ以外で、学校に関わることで学校になじむという雰囲気を感じる。普段の先生方の様子を見られたり、接したりすることができている。

委員：教職の人気の無いと間違った認識がされている。大量退職による倍率減が原因である。本校でも教員になりたいという学生はいるが、その基礎的なスキル、知識が備わっていないと感ずることがある。

委員：以前より社会人経験のある方で教員として採用される方が増えているが、そういう方はアドバイスなどが伝わりやすいが、そういう経験やアルバイト経験が無い方は、学校社会のことしかわからず、一般社会的な部分について本人がピンとこないこともある。

委員：ボランティアなど大学生との連携をしたいが、地理的な部分で大学と離れているので難しい部分がある。出身者も多くないので。大学周辺の市に偏っていると感ずる。

委員：今年度から始めた。自分で探してきたり、大学が紹介して、これは単位化できるかどうかを判断している。報告書と発表をさせている。学校だけでなく児童クラブなども認めている。

#### 〈採用選考等の工夫・改善〉

委員：講師の先生でなぜ採用試験通らないのだろうかという方がいる。教科によっても違いがある。

委員：教科によって差がある。英語、社会は依然として倍率が高く、採用が厳しい。

委員：3年生受験について、うちの学生はそこまでのメリットを感じていない。勉強の途中であるし、4年でも受験ができるからである。

委員：2年以上勤務している講師は良いが、1年しか勤務していない講師も受験できるような仕組みがあれば、今年は教職教養のみ受けて、次の年専門といった受験方法もできる。勤務しながら勉強が大変なので、そういうやり方もある。

委員：先ほども話が出たが、先生になり手がいないとメディアがいうが実際はそうではない。マスコミが報道するイメージが強いので、受験者が多くなるような取組というのは大事だと思う。3年生受験の以前に、先生の魅力をより発信しないといけないと思う。

事務局：試験が5月となった場合、大学としてはどうか。

委員：3年生秋でも教育実習に行くことができるようにしようと検討している。教育実習で火が付く学生も多い。採用試験の時期と実習がかぶっているため、今は4年秋？である。

委員：実習に行く前に採用試験となっていて、学生としても本気になる前に試験になっている。今実習を早めるように検討しているが、大学としてもカリキュラムの変更など苦勞している。早期化の効果がでているのであれば良いが、できれば早期化はやめてもらいたい。